

**第2次南アルプス市総合計画
後期基本計画・施策マネジメントシート**

作成日：令和 3年 7月28日

更新日：令和 3年10月 7日

政策No.	3	政策名	うるおいと活力のある 快適なまちの形成	施策主管課	都市計画課
施策No.	23	施策名	都市空間の整備	施策主管課長名	飯野 芳彦
施策関連課名			政策推進課、管理住宅課		

1 施策の目的と指標

(1) 対象(誰、何を対象としているのか) ※人や自然資源等	市民	(3) 対象指標(対象の大きさを表す指標)	A 人口	単位	人
(2) 意図(この施策によって対象をどう変えるのか)	安全・快適な都市空間で生活する。	(4) 成果指標(意図の達成度を表す指標)	① 街並みや景観は美しいと感じる市民の割合	単位	%
			② 南アルプス市は住みやすい地域だと感じている市民の割合	単位	%
			③		
			④		
成果指標設定の考え方 (成果指標設定の理由)	① 街並みや景観への市民の評価を示す／街並みや景観が美しいと感じる市民が多いほど、快適な都市空間であるといえるので、成果指標とした。 ② 居住空間としての市民の評価を示す／安全で快適な都市空間が形成されていれば、その中で生活する市民が住みやすい地域だと感じるので、成果指標とした。 ③ ④				
成果指標の測定方法 (どのように実績値を把握するか)	① 市民アンケート『市内の街並みや景観は美しいと感じますか』において、「あてはまる」「ややあてはまる」と回答した人の割合 ② 市民アンケート『南アルプス市は住みやすい地域だと感じますか』において、「あてはまる」「ややあてはまる」と回答した人の割合 ③ ④				

2 指標等の推移

指標名	単位	数値区分	前期基本計画					後期基本計画				
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
対象指標 A 人口	人	見込み値					71,089	70,568	70,041	69,521	68,996	68,430
		実績値	72,305	72,018	71,880	71,602	71,370	71,249				
		見込み値										
		実績値										
成果指標 ① 街並みや景観は美しいと感じる市民の割合	%	目標値	53.8	54.6	55.4	56.2	57.0	54.8	55.6	56.4	57.2	58.0
		実績値	55.7	55.6	57.3	45.2	47.0	49.9				
		目標値	70.0	70.5	71.0	71.5	72.0	68.8	69.6	70.4	71.2	72.0
		実績値	65.4	70.2	70.6	62.5	61.7	70.1				
		目標値										
		実績値										
		目標値										
		実績値										
目標設定の考え方・理由(可能性と必然性)												
①			前期4年間の実績値の推移からは傾向が見えづらいため、平均値を成り行き値とした。H22年度以降、アンケート結果は50%程度で推移しており、H29年度の実績値(57.3%)が過去最高値であったが、H30年度の実績値は大幅に低下しているため、最終年度(R6年度)には過去最高の水準とすることを目指し、目標値を58.0%とした。									
②			前期4年間の実績値の振れ幅が大きく傾向が見えづらいため、平均値を成り行き値とした。前期期間のアンケート結果でH28、H29は70%を超えたが、いずれも前期の目標値(72.0%)に達していないため、後期の目標値を前期の目標値と同じ72.0%に設定した。									
③												
④												

3 施策の役割分担

①市民(市民、事業所、地域、団体)の役割(住民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが共助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと)	②行政(市、県、国)の役割(協働を進めるため市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)
景観保全に向けた意識をもつ。 建築物等への景観色の積極的な採用。 積極的な美化活動・景観保全活動への参加(市民、地域)。 土地の適正管理。	景観に関する広義の周知(風景・史跡・色使い等)。 開発申請に対する適切な指導。 屋外広告物に対する適切な指導。

4 施策の状況変化・住民意見等

①施策を取り巻く状況変化(対象や根拠法令等は、今後(～R6年度末を見越して)どのように変化するか?)	②関係者からの意見・要望(この施策に対して住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?)
人口減少等の社会問題のため、地域自治会の活力低下により景観保全活動等が出来なくなる懸念がある。 国の施策としては、立地適正化計画を作成し、コンパクトシティを目指す流れが強くなるのでは。	土地利用の方針を明確に示すように議会質問で上がっている。 個別事務事業に関し、身近な公園の整備・修繕要望がアンケートの自由意見に寄せられている。

5 予算等の推移

※当初予算。骨格予算の年度は6月補正後

区分	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
関連事業本数	28	28			
関連事業予算額(単位:千円)	150,830	146,515			
国庫支出金	13,000	0			
県支出金	131	341			
地方債	11,700	0			
その他	5,156	25,707			
一般財源	120,843	120,467			

(1)目標達成度(目標値との比較)		※背景・要因と考えられること(根拠となる実績値、判断理由など)
<input type="checkbox"/>	目標より高い実績値だった	・まちづくり指標① 景観保全のために個人や地域団体による緑化推進、環境美化活動が行われていることや景観保全活動に関心がある一方で、景観を阻害していると思われる違法な屋外広告物、耕作放棄地、雑木雑草の繁茂、工作物の色彩等の影響が考えられる。 ・まちづくり指標② アンケート回答者数708人中の70.1%が肯定的で住みやすい地域と感じている。なお、居住年数別に見ると21年以上の方が74%を占めているが、全てが肯定とは考えにくい。景観とは別に居住地域の環境の評価と考える。 【結果】指標②は目標値と捉え、指標①の景観に対する認識がまだまだ浸透していないと考え、この評価を重要視すると、「どちらかといえば目標より低い実績値」と判断した。
<input type="checkbox"/>	どちらかといえば目標より高い実績値だった	
<input type="checkbox"/>	目標どおりの実績値だった	
<input checked="" type="checkbox"/>	どちらかといえば目標より低い実績値だった	
<input type="checkbox"/>	目標より低い実績値だった	
(2)時系列比較(どのように変化してきたか)		※背景・要因と考えられること(根拠となる実績値、判断理由など)
<input type="checkbox"/>	成果がかなり向上した	・まちづくり指標① 前期基本計画のH30年度に大きく下回り全体的にバラツキを感じるため、実績値5年間の平均52.2%と比較すると、今回の実績値49.9%との差は▲2.3%下回る。対前年度比では2.9%向上している。景観の保全は徐々に改善がみられるが、苦情等はないがまだ評価されない部分があると考え。 ・まちづくり指標② 指標①同様にバラツキがあり、5年間の実績値の平均66.1%と比較すると、今回の実績値70.1%との差は4.0%向上し、対前年度比では8.4%向上している。アンケート結果では、住み続けたい評価も74.2%であるため、地域的に住みやすい環境であると考え。 【結果】指標①、②共に数値の変動はあるものの、前期実績から判断すると概ね「横ばい状態」と考える。
<input type="checkbox"/>	成果がどちらかといえば向上した	
<input checked="" type="checkbox"/>	成果はほとんど変わらない(横ばい状態)	
<input type="checkbox"/>	成果がどちらかといえば低下した	
<input type="checkbox"/>	成果がかなり低下した	
(3)他団体比較(近隣他市、県・国との比較など)		
<input type="checkbox"/>	かなり高い成果水準である	※≪他市の市民意向調査は「R1年度版のみ」であり、本市のR2市民アンケート成果の肯定と中立を按分した数値の合計と比較した。但し、本市5択、甲斐市4択、韮崎市5択、質問に対する評価基準と指標などの違いがあるので単純比較はできない。≫ ・まちづくり指標① 南アルプス市(66.8%)、甲斐市(62.6%)、韮崎市(71.0%)であった。 ・まちづくり指標② 南アルプス市(77.8%)、甲斐市(87.4%)、韮崎市(77.6%)であった。 【結果】数値に差はあるものの、「ほぼ同水準」と考えられる。
<input type="checkbox"/>	どちらかといえば高い成果水準である	
<input checked="" type="checkbox"/>	ほぼ同水準である	
<input type="checkbox"/>	どちらかといえば低い成果水準である	
<input type="checkbox"/>	かなり低い成果水準である	

7 基本計画期間における施策方針

(1)施策の基本方針
・開発案件等の適切な指導や既存施設の維持管理により、みどり豊かな街並みの保全を図り、次世代を担う子どもたちが故郷に誇りと愛着を持てるような都市空間を整備する。 ・南アルプスインターチェンジ周辺と、これにつながる新山梨環状道路沿線については、新交通網を活かした成長産業の集積など、新たな都市機能の構築を目指す。

8 施策の目標達成のための基本事業の今年度(R3年度)の取組(事務事業)状況・今後の課題と次年度(R4年度)の方針

基本事業	今年度(R3)の取組(事務事業)状況及び今後の課題	次年度(R4)の方針
1 秩序ある土地利用の推進	都市計画区域内の用途無指定地域への開発が多く見られるため、申請案件の適正な指導を進めている。 人口減少、少子高齢化の進展に伴いコンパクトシティを目指すべきという国の施策変化に対応するためには、土地利用や立地適正化計画の公共施設等の機能誘導区域の設定や用途地域外から用途地域内、居住誘導区域への誘導等の難しい課題がある。また、都市部と地方部の状況も大きな違いがあるため、地域にあった検討が必要である。	開発協議においては、都市計画法、市要綱に基づき引き続き適正な指導の推進。 また、市総合計画や土地利用方針に基づいた、まちづくり推進のための計画を検討し政策的な連携と協議に取組む。
2 住みやすい住空間の整備	市民の憩いの場である、都市公園等の長寿命化と適正管理に努め、美しい街並みの景観を保全し緑化による環境維持の確保を行うとともに、景観に対する指導と市民の景観への関心を高める啓発。また、屋外広告物への指導も行う。 人口減少や少子高齢化により、景観保全活動や緑化維持の担い手が不足することが懸念される。違法屋外広告物の改善。	令和3年度同様、安心して安らげる公園の維持管理、景観保全のため適正な指導と市民への景観意識向上のための啓発の推進。 また、違法屋外広告物の是正指導の推進。
3 拠点都市機能の整備	総合計画、都市計画マスタープラン、市土地利用方針による計画的な都市づくりのための政策を進めるとともに、県都市マス、区域マスとも整合を図り、広域的な連携のなかで協議を進めている。 中部横断自動車道の山梨-静岡間の開通、新山梨環状道路の整備促進、リニア中央新幹線駅からの交通環境等の好条件を活かして将来を見据え、土地利用方針に基づいた計画的な整備を推進するとともに、くらしの利便性や地域の活性化につながる拠点都市機能となるよう検討する必要がある。	令和3年度同様に、市総合計画及び各種計画や方針に基づいた政策を進めるとともに、県や市関係部署と連携のなかで検討を進める。 南アIC新産業拠点の整備推進に協力し、県への都市計画法の手続きを迅速に行う。また、南アIC周辺土地利用も庁内連携を密に協力する。
4		
5		